

「コロナ禍の中で働いて私たちが感じたこと」アンケート結果

2023年3月09日
京都医療労働組合連合会

I 概要

私たち、京都医療労働組合連合会（34 組合・5,449 人・12 月時点、執行委員長：勝野由起恵）は、10 月から 2 月にかけて、コロナ罹患時の休みの扱い、人員体制や退職の状況、精神的負担、患者・利用者への影響、政府のコロナ対策に関するアンケートを取り組みました。

2,079 人（20 単組・支部）の組合員から集約しました。2022 年のアンケートの集約数は、1,792 人（20 単組・支部）です。

事業所の内訳は、病院 14、診療所 18、歯科診療所 3、介護施設 5、在宅・訪問看護 20、薬局 5 です。職種の内訳は、①医師 11 人、②医療技術職 444 人、③看護師 975 人、④事務職 252 人、⑤技能・労務職（助手含む）82 人、⑥介護職 192 人です。働く場所の内訳は、①外来 394 人、②病棟 902 人、③その他医療 475 人、④入所介護 83 人、⑤その他介護 151 人です。①コロナ対応している部署は 1108 人、②対応していない部署は 578 人、③対応はしていないが、受け入れている部署は 287 人です。雇用形態の内訳は、①正職員 1799 人、②パート 197 人です。

結果は、以下の通りです。

II 調査結果

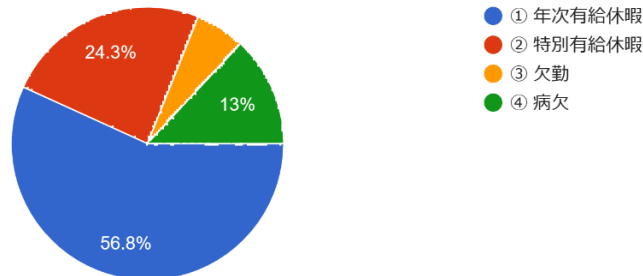
1 コロナに罹患した時は、6 割近くが年次有給休暇を活用、労災活用はわずか 9.1%、濃厚接触者は 5 割強が特別有給休暇を活用

本人や同居家族がコロナに罹患したと答えた組合員は約半分（1009 人・50%）となっています。感染経路は、①職場 281 人（34.8%）、②プライベート 259 人（32.1%）、わからない 268 人（33.2%）となっています。

こうした中で本人が罹患した場合の休みについては、444 人・56.8%の組合員が年次有給休暇を活用し、特別有給休暇は 190 人・24.3%、病欠 102 人・13%、欠勤 46 人・5.9%と続いています。本来なら、罹患すれば事業所が本人に出勤停止を命じますので、年次有給休暇の活用はそぐわないが、実態としてこのようになっています。特別有給休暇制度の創設が進んでいないのが伺われます。公務員の場合は、常勤・非常勤を問わずに、コロナに罹患した場合は、「有給」の特別休暇となっていますので、その水準からしても医療・介護現場の実態は遅れていることが明らかになりました。

(2) その時の休みはどうなりましたか？

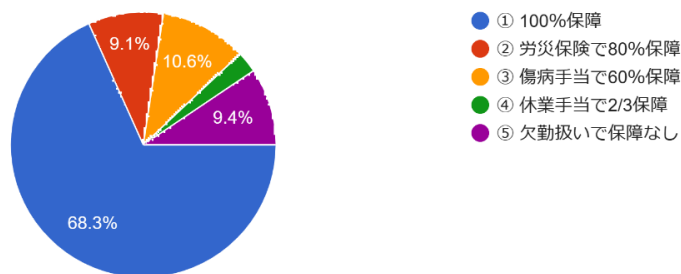
782 件の回答



また、賃金保障は年次有給休暇の活用も反映してか、478 人・7 割近い方 (68.3%) が 100% の保障となっています。問題なのは、労災保険給付の活用がわずか 64 人・9.1% となっていることです。「(医療看護現場では業務の性質上)、業務外で感染したことが明らかである場合を除き、原則として労災保険給付の対象となります (厚生労働省ホームページより)」となっていますが、実態は、労災保険給付の活用があまりにも少ないことが明らかになりました。

(3) 賃金はどうなりましたか？

700 件の回答

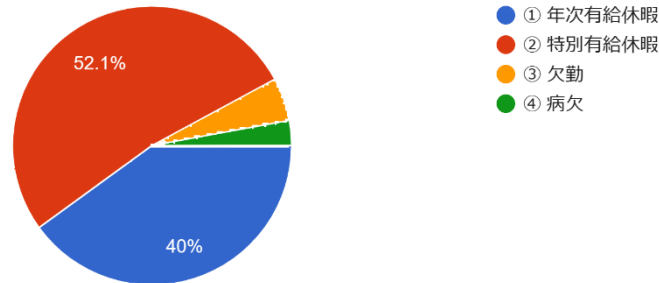


一方で、同居する家族がコロナ感染し、本人が濃厚接触者になった場合は、396 人・5 割強 (52.1%) が特別有給休暇制度を活用しています。この場合でも年次有給休暇を活用している方が 304 人・4 割いることがわかりました。

指定感染症法を 2 類から 5 類の見直しに伴って、いくつかの病院では特別有給休暇制度を廃止しています。今後、感染したとしても年次有給休暇を活用しなければいけない状況に陥ってます。

3 家族がコロナに罹り、あなた自身が濃厚接触者になった場合の休みはどうになりましたか？

760 件の回答



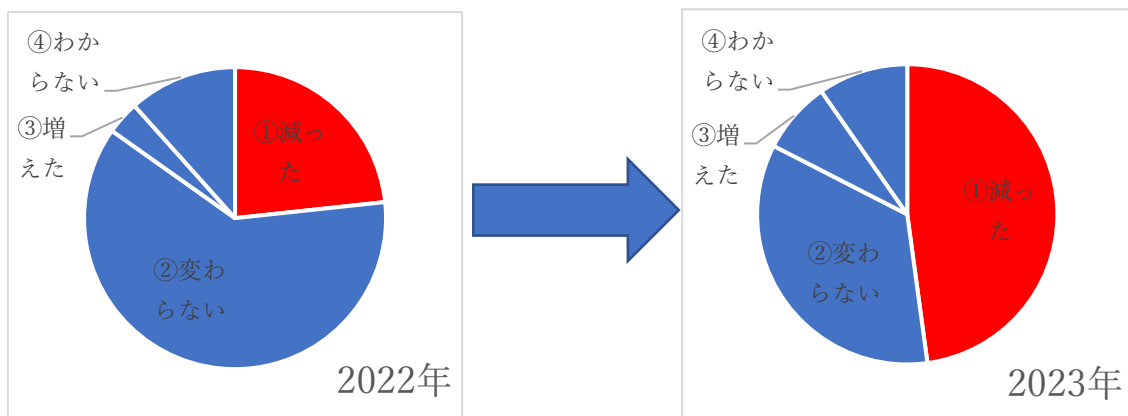
【自由記載欄】

「コロナにかかったの休みなのに年休はおかしい。長期にわたっての休みなので一気に減ってしまう。」「非常勤で社会保険は扶養家族で、コロナ感染で年休を使い切った。」「特別休暇のはずが、出勤するように言われ、毎日抗原検査をして出勤し、なれない場所で残業の勤務をさせられた。」「(入社1年目で有休が少ないため) 欠勤扱いになりボーナスに影響を受けました。」「職場に迷惑をかけている。他の人が多忙になっているという実態があり、申し訳ない気持ちになった。」「買い物に行けないこと。家族から感染したのではという恐怖。」「患者さんにうつしてないか不安だった。」「食料の確保でネット購入したり、使い捨て物品の購入などで出費が増えた。」「コロナ特休の制度が終了した。ないと困る。」「食糧支援は療養解除になってから大量に届いた。」「一人暮らしの為、支援する人がいないと結構困った。」

2 昨年から倍増、5割近い人が「人員体制は減少」

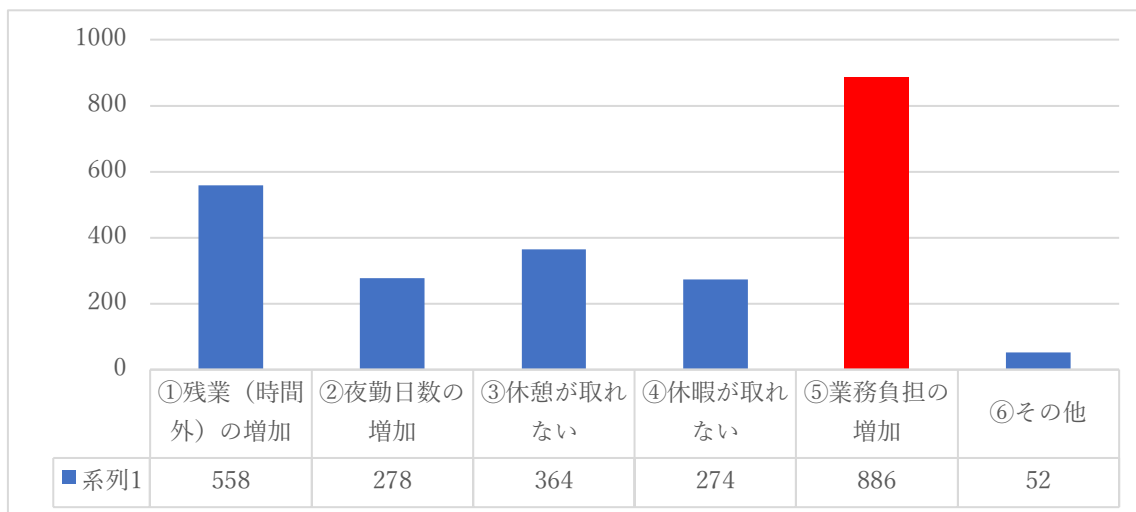
2022年1月以降で、部署の人員体制が「減った」と回答した人は967人・47.8%（昨年：373人・23.3%）、「増えた」と回答した人は157人・7.8%（昨年：57人・3.6%）です。

慢性的な人員不足の下で、仕事を離れても行動自粛を強いられ、心身ともに疲れ切って、看護師そのものを辞める人が増えています。昨年と比較しても、「人員体制が減少した」と回答した人が倍増するなど、深刻さは増しています。



3 増えない人員体制で「業務負担」は増加

「人員体制の変更で職場環境にどんな影響がありましたか？」の質問で一番多かったのは、「業務負担の増加」(801人)です。次に「残業(時間外)の増加」(502人)、「休憩が取れない」(332人)、「休暇が取れない」(259人)と続きます。

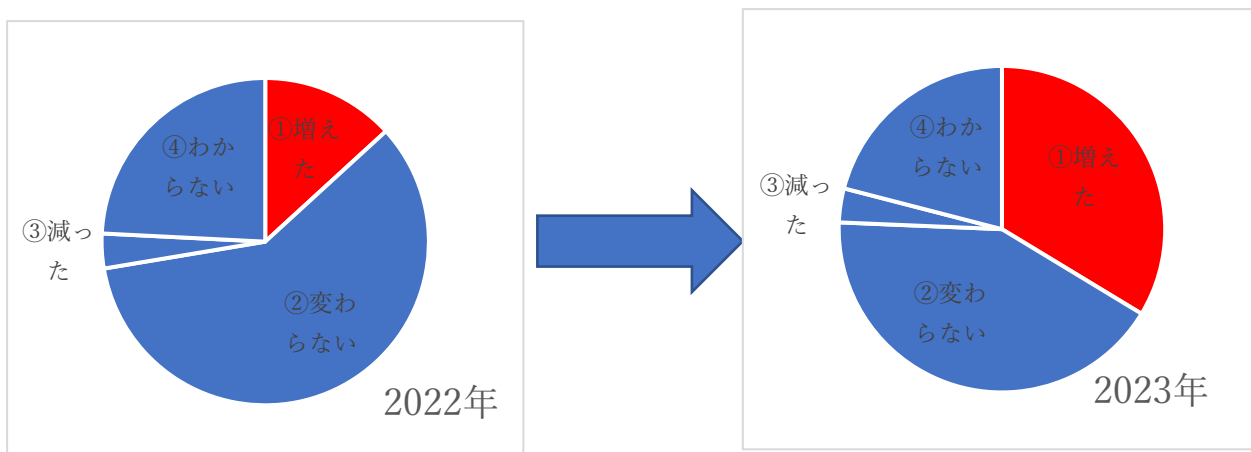


人員不足のために、ある病院では看護師が月20日夜勤労働を課せられ、介護施設では夜勤明けで日勤のお風呂介助、12時間以上の勤務など極めて厳しい環境に置かれています。

コロナ以前から慢性的な人員不足状況が続いていたのに、コロナ禍で感染、または同居家族の濃厚接触者など休まざるをえなくなり、人員不足に拍車をかけています。

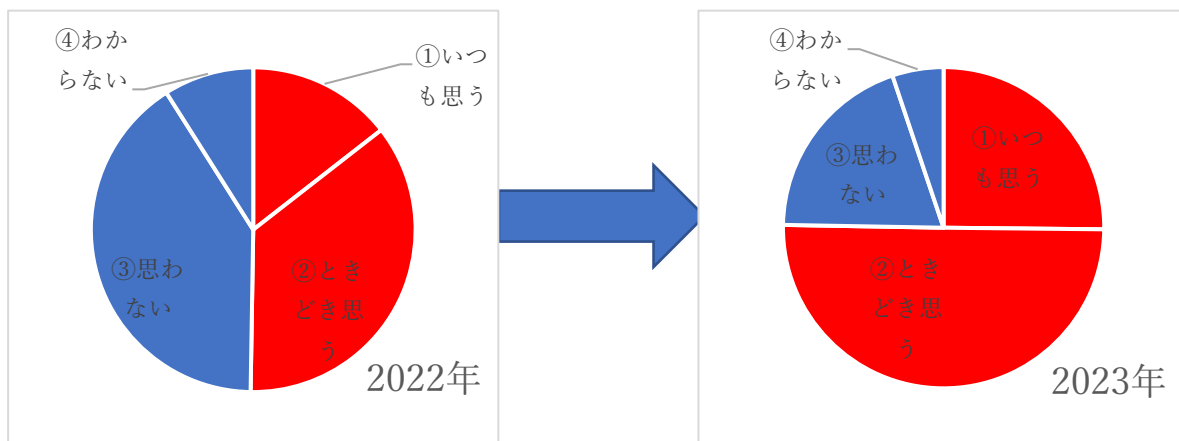
4 退職者も昨年から約2.5倍以上に激増(13.2%→33.5%)

2022年1月以降で、退職者が増えたと回答した人は675人・33.7%(昨年:227人・13.2%)です。「減った」と回答した人は67人・3.4%(昨年:59人・3.4%)と昨年と変わっていません。一方で「変わらない」と回答した人は837人・42.0%(昨年:1017人・59.2%)となっています。



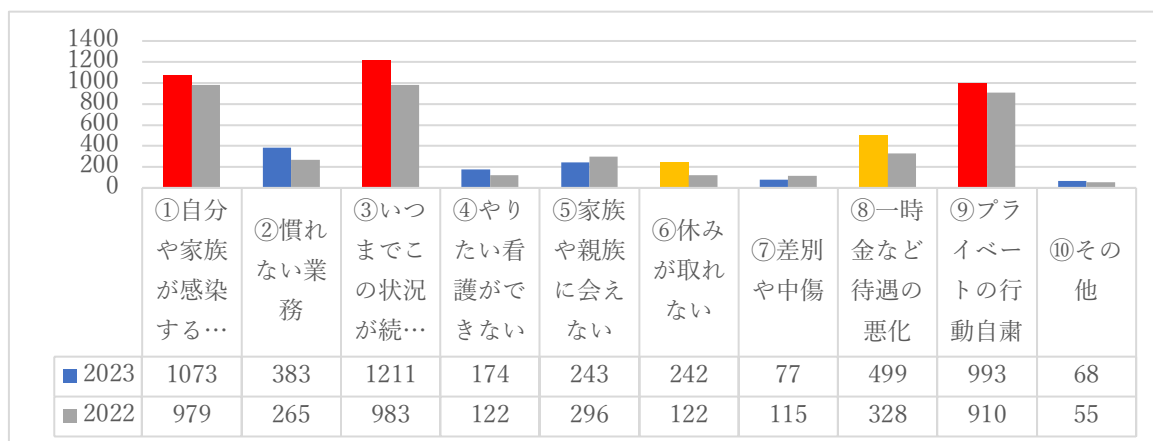
5 約4分の3人以上（75.3%）が、仕事を辞めたい

「いつも」仕事を辞めたいと思う人は512人・25.2%（昨年：251人・14.5%）、「ときどき」思う人は1,020人・50.1%（昨年621人・35.8%）で、あわせて75.3%となり、昨年の50.3%を大きく上回っています。



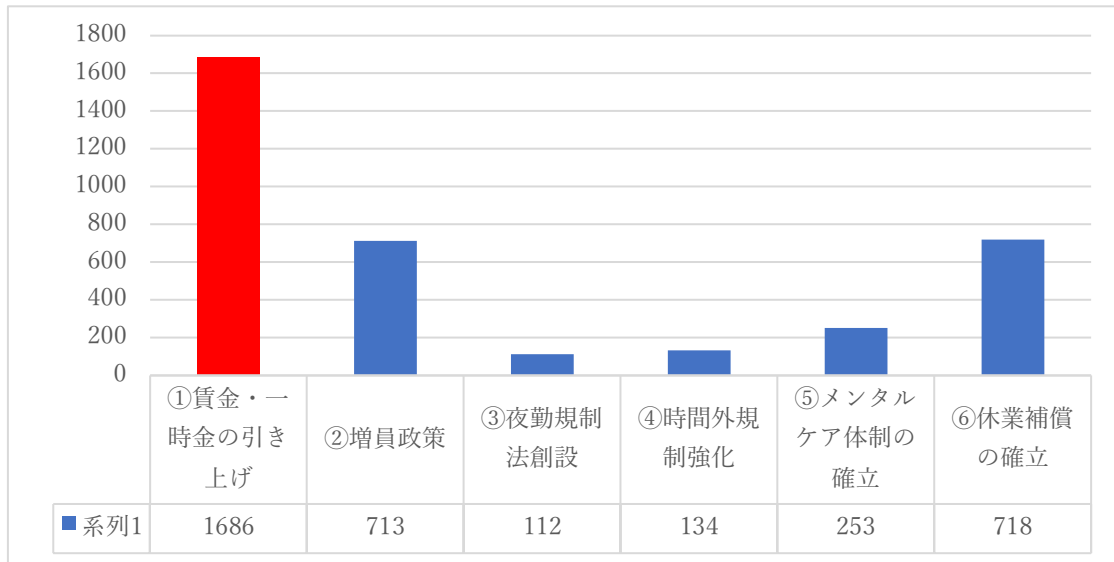
6 ゴールが見えない不安、感染することへの恐怖、プライベートの行動自粛などが「精神的負担」

「どのようなことに『精神的負担』を感じますか？」という質問で一番多かったのは、「いつまでこのような状況が続くのかという不安」1211人（昨年：983人）と昨年と比較して増加しています。次に「自分や家族が感染することの恐怖」1073人（昨年：979人）、「プライベートの行動自粛」993人（昨年：910人）と続きます。「休みが取れない」が昨年の122人から242人、一時金などの待遇の悪化も昨年の328人から499人に増える等、医療・介護労働者の賃金・労働条件の悪化が深刻となっています。日本赤十字社医療センターの調査では、3割近くがうつ状態、調査を行った医師は「無症状でも感染させてしまうウイルスの特徴もあって、不安が増している。医療者を精神面で支える対策が必要だ」と指摘しています。

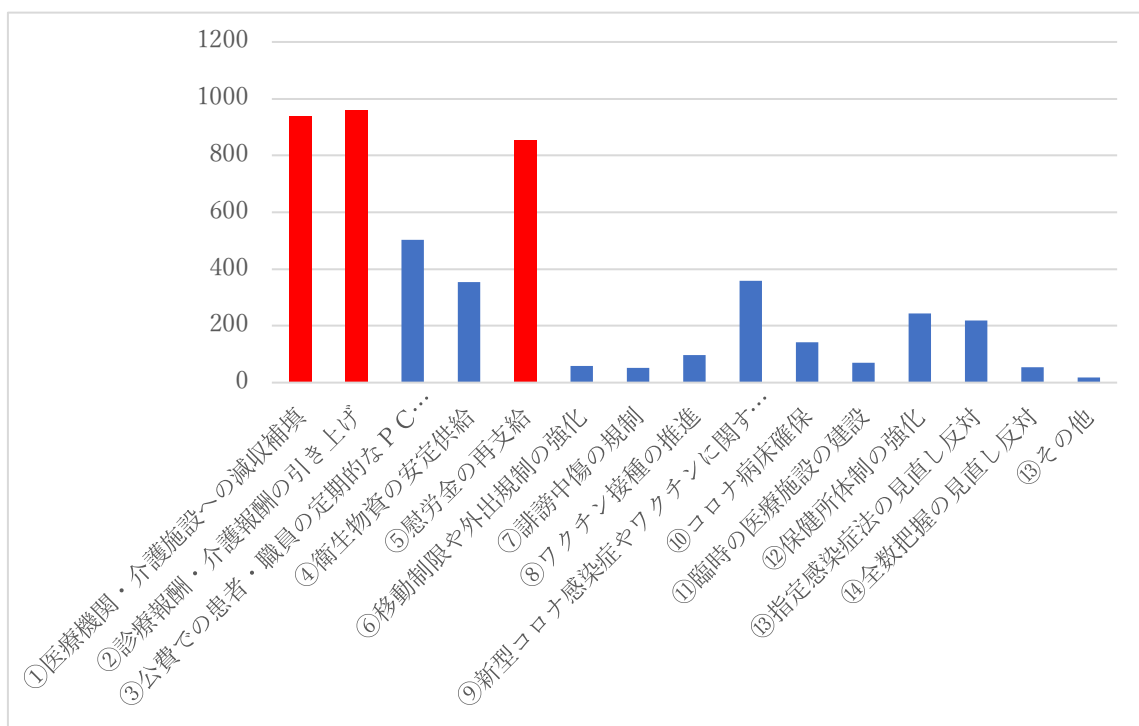


7 国や自治体に「賃金・一時金の引き上げ」をもとめる

医療・介護労働者の処遇について、国や自治体に求めることで一番多いのは、「賃金・一時金の引き上げ」1686人（昨年：1340人）です。続いて「休業補償の確立」718人（昨年：467人）、「増員」713人（昨年：583人）となっています。



医療・介護政策では、「診療報酬・介護報酬の引き上げ」が一番多く960人（昨年：667人）です。続いて、「医療機関・介護施設への減収補填」938人（昨年：635人）、「慰労金の再支給」853人（昨年：612人）となっています。



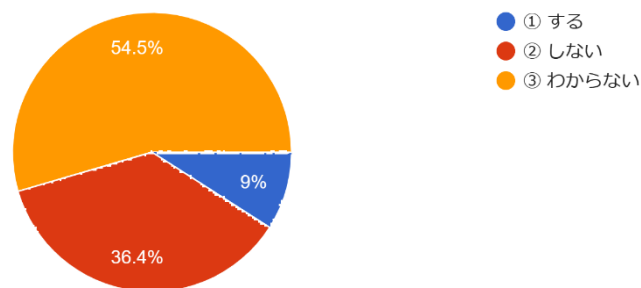
8 政府のコロナ対策については、36.4%が支持しない

政府のコロナ対策については、「支持しない」665人・36.4%（昨年：627人・36.4%）、「支持する」は、わずか165人・9.0%（昨年：241人・14.0%）で昨年より5.0%減少となっています。

「支持しない」理由は次の通りです。「後手後手な対応でなおかつ病床を減らしたり、病院の統合などありえない」「保健所の体制、減らしすぎだ！」「こんな時に数を正確に把握しない。補助金やめる。社会保障制度改悪、何してんねん。」「経済を回すための旅行支援だろうが、コロナに罹った後の対応や保障が確保されていないので無責任。」「マスクはすべき。」「with コロナまだ早い。」「5類になると外来で発熱を診なければならないが、罹ることは変わらないし、罹ったら大変なものも変わらないのに、見直す意味がわかりません。」「第8波に入っているのに又、なぜ旅行支援するのか。なぜ旅行業界だけ？罹患者さらに増えるし。」

(3) 政府のコロナ対策について支持しますか？

1,825件の回答

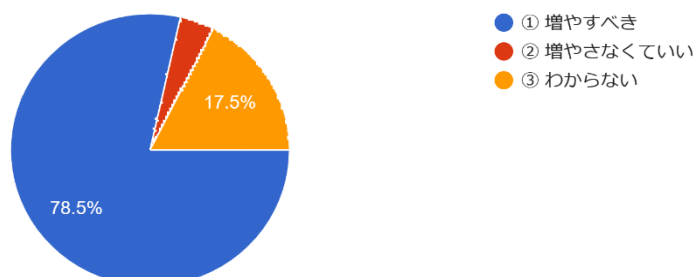


9 医療・介護従事者、感染病床は増やすべき

コロナ禍を経て、医療・介護従事者を「増やすべき」と回答した人は1,432人・78.5%と4分の3以上を示しました。コロナ患者等を受け入れる感染症病棟についても「増やすべき」と回答した人は763人・43.0%となっています。

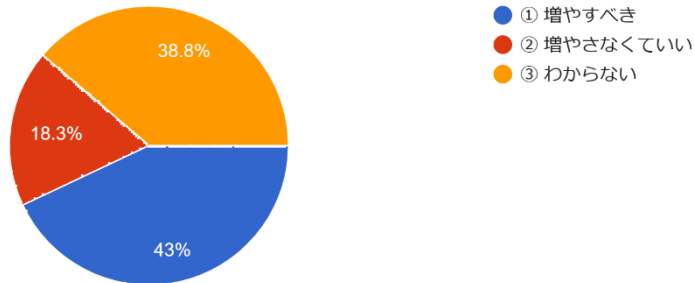
(4) コロナ禍を経て、医療・介護従事者は増やすべきですか？

1,824件の回答



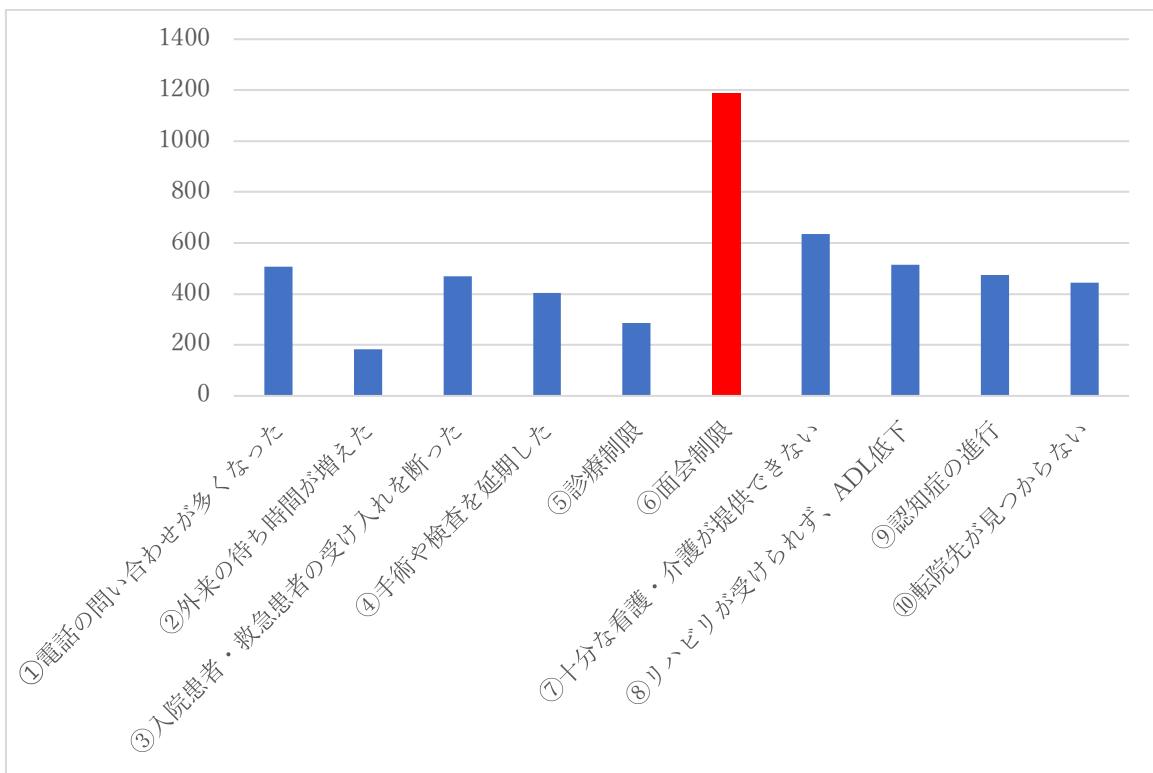
(5) コロナ禍を経て、コロナ患者等を受け入れる感染症病床は増やすべきですか？

1,775 件の回答



10 コロナ禍での患者・利用者の影響は、「面会制限」が一番多い

コロナ禍での患者・利用者への影響で、1番多いのは「面会制限」1188人、「十分な看護・介護が提供できない」636人、「リハビリが受けられず、ADL低下」515人、「電話の問い合わせが多くなった」508人と続いています。



1 1 コロナ禍で感じたこと、経験したこと

「コロナ感染で亡くなった方と家族のお別れがひどい対応だと思います。感染源かもしれないけれど袋に入れられる事は仕方ないかもしれないけれど最後のお別れは顔を見せてお別れさせてあげたいと思う。」「世の中は、GoTo キャンペーンとかしていて楽しそうだが、もし自分がコロナになって患者にうつったらどうしようとか、ただでさえ、病棟の看護師の人数が少ないのに休んでしまったら申し訳ない気持ちになることや、ガウンなど感染対策の大変さを経験してるから、もうそうなりたくないと思うため、自分も自由に旅行やご飯に行きたいがなんとも言えない気持ちになる。」「居場所活動ができなくなり、元気な（活気のある）高齢者の方が一気に要介護になってしまう事例が増えた。」「とにかく家族がかかって自分もかかってでとてもしんどかった。しかし、職場も人がいない中で圧を感じた。」「保健所の数を減らしたことにより保健所が機能しなくなりかなりの負担をかけたことを反省してほしい。」「入院患者さんが家族と面会できないことで不安感、孤独感を強めている。」「元々ぎりぎりの人員体制で業務を行っておりコロナ禍で、その人員体制に無理があることが分かったのではないか。」「家族との面会制限などにより、認知症悪化する患者が増えた。」「とにかく大変、人手不足、そろそろみんな限界です。」「いつまで続くのか、という精神的なストレスが長期間続いている。」「当院は発熱外来をしているが、この寒さの中、きちんとした部屋・場所の確保、暖房の準備していない中、外での待機というのはいり得ない。」「コロナ陽性者と接触した看護師に病棟ではプラスの賃金が出ると聞いたが訪問看護師ではそれが無いというのはなぜか。」「コロナで休む人のしわ寄せがくる分業務量が増えていく。しょうがないのは分かるがその分のフィードバックがほしい。」「プライベートが楽しめなくなったので、仕事しかしておらず、毎日憂鬱です」「在宅の最前線にいるヘルパーやデイサービスのスタッフには十分な補填がない」「コロナ対応病棟の看護師だけが、補助金などをもらっていたが、私たちはずっと満床で他科患者の受け入れなどすごく大変な業務や時間外労働をせざるを得ない状況だった。」「もう疲れしました…。」

以 上